

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	京都大学	整理番号	2003
プログラム名称	社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	杉野目道紀	プログラムコーディネーター	原田博司

（評価決定後公表）

（総括評価）

- ☐ S：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- ☐ A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- ☒ B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- ☐ C：取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- ☐ D：取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

〔コメント〕

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、京都大学において3つの卓越大学院プログラムと5つのリーディング大学院を統括する大学院教育支援機構を設置し、大学院横断教育プログラムを制度化することにより、専門教育の壁を超えた教育内容とキャリア支援を提供していることは評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、本プログラムの履修生は各自の研究テーマに即してプラットフォームとは何かについて考えを整理することができており、業績や進路展望も獲得できていることは評価できる。他方で、履修生アンケートでは、「通常の博士課程では得られない、高度な専門性が得られる」、「留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める」、「他大学の学生との交流」などについての肯定的回答が少なく、「高い国際性」「チームのマネジメント力」「企画立案、関係者との調整、統率する能力」「他者と協働する力」についても、身についたとする回答が低調であり、改善が期待される。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、複数指導体制や、オムニバス形式のセミナー、フィールドリサーチインターンシップなどが教育課程として整備されているが、学生の自発的な企画運営の機会や学生間の交流の機会が少ないこと、農学・防災・情報以外への分野の拡張が限定されていることなどについては、改善が期待される。

優秀な学生の獲得については、国際学会での発表者数や国際ジャーナルへの掲載数などはKPIを上回る形の実績をあげており、また博士後期課程学生の87.5%が日本学術振興会特別研究員や他のフェローシップに採択されていることなどから、履修生の優秀さがうかがえる。ただし、もともとのKPIの数値自体が控えめであること、プログラムの

応募倍率がほぼ 1 であり選抜が有効に機能していない面があることについては改善が期待される。

世界に通用する確かな質保証システムについては、シンポジウムなどでの報告を以て QE に代えている状況があり、厳正な審査を実施するよう改善が求められる。また、国内外のすぐれた研究者から成る第三者評価委員会の設置などにより、プログラム全体に対する客観的なモニタリングの体制を整備することが期待される。

事業の継続・発展については、博士課程の履修生の多くがフェローシップを獲得していること、外部資金を獲得できていることなどは評価できる。ただし、補助期間終了後の展開についての工程表をより明確化することが期待される。